様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ５ 月 ２８ 日現在

機関番号：３３９０８
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2011～2013
課題番号：２３６５０３９９

研究課題名（和文）明治期の長崎活水女學校に導入された新式体操の解明

研究課題名（英文）New Exercise Method Introduced to Girls' School by an American Woman in the Meiji Era

研究代表者
柿山　哲治（KAKIYAMA, Tetsuji）

中京大学・スポーツ科学部・教授

研究者番号：１０２５５２４２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　2,800,000円、（間接経費）　840,000円

研究成果の概要（和文）：新式体操に関する古写真は、新式体操服を身にまとったものが2点、グラウンドを行進するものが1点、新式体操を演じているものが2点所蔵されていることが確認された。また、卒業生の証言により、ヤング女史が来てから新式体操が毎日16時から30分間行われていたこと、新式体操服は当時ユニフォームと呼んでおり、通常の和服から洋装になるのを恥として免除を願い出る生徒もいたこと、新式体操は音楽に合わせ、号令は全て英語、木環・棍棒・唖鈴を使って行っていたことが明らかとなった。

研究成果の概要（英文）：The new exercise method introduced by Ms. Young became popular, and several valuable photographs taken in 1902 showing scenes of physical education at that time still remain at Kwassui Gakuin. However, its historical significance has not been verified. This research aimed to reveal the details of physical education in the Meiji Era, based on school magazines of that time, testimonies of graduates who had attended the School at that time, and records of staff meetings, etc.
The following old photographs concerning the new exercise method were confirmed to be in possession: two that showed girls wearing a new-style gym suit; one that showed girls marching in the school grounds; and two that showed girls performing the new exercise method.

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：健康・スポーツ科学・スポーツ科学

キーワード：マリアナ・ヤング　オハイオウェスレヤン大学　アレガニー大学　ユニフォーム　WFMS

１．研究開始当初の背景

明治 19（1879）年創設の活水学院は、平成 21（2009）年 12 月に創立 130 周年を迎えた。創設者エリザベス・ラッセルの後継者として 2 代目校長に就任したアメリカ人宣教師のマリアナ・ヤングは、活水学院に洋式の体操服と新式体操を導入した人物として、学校史上知られているが、対外的にはほとんど知られていない。しかし、ヤング女史が新式体操を奨励して明治 32（1899）年 4 月 22 日に大演習会を開催し、明治 35（1901）年 4 月 24 日には長崎市民を対象に「慈善音楽体操会」の有料公開を行っている。そして、明治 32，3 年に撮影されたとされる集団でのダンベル体操の指導者として、日本人女性指導者の姿が見られる。すなわち、体育を専門とする日本人女性教師が明治 35（1902）年以降に現れたとされる前に、活水女学校では日本人女性の体育指導者が誕生していた可能性が示唆され、その事実を検証することは、活水学院の学院史はもとより、九州あるいは日本の体育の歴史に衝撃の事実を与えることになりかねない。その事実の解明には、130 周年記念事業がなされて学院関係者が興味の冷め止まぬ内に行わないと、集約された記憶や記録が風化されてしまう可能性が懸念される。

２．研究の目的

本研究は平成 20（2008）年から始めた「活水女學校における体育の始まり」に関する調査を 2 年間継続し、マリアナ・ヤング女史が活水女学校に導入した新式体操の内容（音楽、号令、用具、動き）について、活水学院資料室に保管されている古写真、校内誌、卒業生の証言記録から解明するとともに、そのルーツをヤング女史が卒業したオハイオウェスレヤン大学、アレガニー大学に辿り、さらには、ヤング女史に養成された日本人女性体育教師の特定作業を完了する。

３．研究の方法

研究の起点となる活水学院資料室および活水同窓会事務局（共に長崎市東山手町）において、これまで収集した学則、古写真、校内誌、同窓会誌、学院史等以外の新たな資料発掘作業を行う。また、ヤング女史、日本人体育指導者についての関係資料が保管されていると思われる青山学院大学図書館、関西学院編纂室にて資料収集を行い、ヤング女史が習得した体育教育のルーツを辿るとともに、日本人体育指導者の特定に至る。

ヤング女史がアメリカ在住時に過ごしたオハイオウェスレヤン大学、アレガニー大学、マリネッチ・ハイスクールにおける明治期の体育教育について史料収集を行い、ヤング女史が導入した新式体操の内容（音楽、号令、用具、動き）を明らかにする。

４．研究成果

（1）教科課程にみる活水女學校の体育

1879（明治 12）年 12 月 25 日の西海新聞に出された「女児學校開設」の広告[1)]には、「この学校は英語だけでなく、日本国民としての一般教養から、女子の手芸、音楽教育に至るまで一つも遺さず教授致すべく」と告げ、1889（明治 22）年にサイモンズ女史により編集された教科課程[1)]にも体育に関する教科は見られなかった。しかし、明治 20 年度「長崎活水女學校規則（1887‐1888 年）」（資料番号[注)]：1‐70‐1‐1）の第四章における生徒行状心得に「第八項　遊歩時間ハ勉強ス可ラス」、第五章の教則に「第三項　指定ノ時間二於テ運歩ヲ怠ルモノハ亦罰點ヲ得ヘシ」という記述がみられた。また、明治 31（1898）年の「長崎活水女學校規則」（資料番号：1‐70‐2）では、第四章の生徒心得に、「第九項遊歩時間ニハ勉強ス可ラス、第十項　指定ノ時間二於テ運動ヲ怠ルベカラズ若シ之ヲ怠ル者アルキハ罰點ヲ得ベシ」と記載されていた。さらに、明治 34（1901）年 7 月改正の「活水女学校規則　付初等科　中等科　高等科学科課程表」（資料番号：1‐70‐3‐1）では、教科課程において正課の予科から高等科に

至るまで、低学年では普通体操、中等科3年から器械体操がどの学年にも週2時間を配置しており、第七章の生徒心得に、「第三十六条　生徒ハ必ズ体操運動ヲ怠ルベカラズ若シ健康上体操運動ヲナスコト能ハサル時ハ校医ノ署名ヲ得テ其欠席セントスル部分ヲ届出ツベシ」と明記されていた。

（2）古写真にみる活水女學校の体育

ヤング女史が導入したとされる新式体操を生徒が身にまとった集合写真は屋内（資料番号：2-1-(3)-14-1）と屋外（資料番号：2-13-1)で撮影されたものが2点確認された。いずれの写真においても生徒は髪の毛をリボンで一つに結び、セーラー服様の上着は長袖、ズボンは裾の締まった羊蹄型で、長足袋様のものを履いており、撮影は 1899（明治32）年頃と記載されていた。また、「ヤング先生の新式体操大演習会　カウエンチャペルで開催　その時生徒は新しい体操服を着用　明治32（1899）年4月22日夕」と説明書きのある写真（資料番号：2-1-(3)-10-1）は、写真自体が真っ黒に焼けていて保存状態が悪く、内容の確認が困難であったが、デジタルカメラで撮影し、パソコン上に拡大して観察すると、隊列を組んでグラウンドを行進する多数の生徒が映し出され、地面にはセパレートコースが引かれ、日章旗も飾られており、説明書きのチャペル内ではないことが判明した。さらに、ヤング女史が導入した新式体操と説明書きされた写真は 2 点確認され、1 点は足元にダンベルを置き、隊列を組んで屋外で体操している写真（資料番号：2‐1‐（20）‐6）と、もう 1 点はダンベルを片手に持ち、もう一方の手を腰にあて、足を前後に開いて立つ列と、後頭部に手あて、両足を揃えて立つ列が交互に演舞している写真（資料番号：2‐1‐（20）‐7）であった。

一方、創立35周年を記念して1914（大正3）年に発行された KWASSUI JO GAKKO Thirty-Fifth Bulletin[4]＜活水三十五年史（英文）＞のなかに、「Out for a Walk」とだけ書かれた写真が掲載されていた。和服に雪駄で髪には大きなリボンを結んでいる生徒も見られ、3 列で大勢の生徒が並んで歩く姿が映し出されている。撮影年月の記載もされていないが、ヤング女史着任以前の学校規則に見られた「遊歩」や「運歩」を示すものではないかと推察される。

（3）卒業生の証言による活水女學校の体育

1900（明治33）年の活水女學校初等科入学から専門音楽科卒業までの13年間を過ごし、卒業後も大正期、昭和期と活水学院の職員として奉職した田添テルは、交友会誌や同窓会誌、在校生を対象にした講演会にも招かれ、当時の体育に関する数多くの証言を残している[5]。それらを整理すると、「ヤング女史が来てから体操が始まり、輪や棒や唖鈴を用いて音楽に合わせて行っていた。体操服は木綿製でユニフォームと呼んでいた。ライトフェイス、レフトフェイスと号令は全て英語であった。舞鶴座でこの体操を音楽と同時に市民に発表会を行い、評判になって新聞に載った。」など、古写真だけでは伺い知ることのできない動的な情報も抽出された。その一方で、「洋服を着るのが初めてで、大変で、一番つらかった。なかでも、ユニフォームは一人ひとりに与えられたのではなく、倉庫に入れてあるのを自分でサイズを確認して選んで着るため、靴下がずれないように履くのが一番の苦労でした。」といった証言[5]もみられ、当時モダンと評されていた新式体操服も、和服を着なれた生徒にとっては、身にまとうことすらひと苦労であった様子が伺える。

また、1910（明治43）年に活水女學校中等科を卒業し、初の女性厚生大臣になった中山マサは、昭和36年3月3日付の長崎新聞の「母校」欄、活水学園（資料番号：2‐24‐24）の中に、「そのころ、活水では年に一回、舞鶴座（長崎最大の劇場だった）で全校体操というものを開き、市民には有料で公開して

いた変テコリンな木綿の体操服を着ていまでいうフォーク・ダンスを舞ってみせるわけだが、新しがり屋の市民には大変な人気だった。学校の体操を有料でみせるというのもまた長崎らしい愉快な話ではある」と回顧している。

さらに、1902 年（明治 35）年に高等科を卒業した山分乙枝は、1972（昭和 47）年 3 月 28 日に活水学院で講演し、「授業は 45 分で行われ、行間の休み時間がなく、先生のいる教室へ生徒が移動して授業を受けていたことや、ヤング女史が来てから音楽を入れた体操は毎日 16 時から 30 分間行われていた」など、明治期の活水女學校の日課について証言している。

（4）ヤング女史が体育を導入した理由と導入当初における生徒の反応

ヤング女史は、「着任後長崎の教育の体育分野におけるおくれに着目して、組織的な新式体操を導入する」[1]ことにしたが、もう一つの理由が「か弱なる生徒の身体を強くするため」であった。KWASSUI JO GAKKO 1879-1929[3]には、「There is a vast difference between the sturdy looking girls that come into the High schools today after having Physical Training throughout their Primary Course, and those delicate appearing, narrow-chested girls of thirty years ago.（初等科を通じて体育をしたあと、高校に入学する現在のたくましく見える少女と、30 年前のか弱く見える細い胸の少女との間には大きな違いがある）」と記述されている。また、活水学院百年史[1]には「腹式呼吸にしても、筋肉緊張運動（パーカッション）など考える人のない時代であったので、教えこむには苦労したようである。」とあり、さらに、香柏第十一號（資料番号：5‐20‐5）には「ヤング先生が始めて學校に御出になつて音楽入ダンス式體操を御始めになりましたが、大層立派で綺麗で其頃では珍らしいものでありますから此を一度舞鶴座に公開して見せ様と云う事になりまして日夜練習しましたが、どうも能く行かぬ處がありますのでヤング先生は失望してラッセル先生の處へ参り泣て訴えられた（ママ）」との記述がみられ、新式体操を導入した当初のヤング女史は、教授するのにかなり苦心していた様子が伺える。

一方、生徒側の反応については、五拾年記念會ニ関スル記事（資料番号：9‐8）に、「はじめの程は体操服を着るのが恥かしいとて泣いた生徒もあった」、また、活水学院百年史[1]には、「洋装になることを嫌って免除を願い出たものもあった」と記述されており、有料公開に至るまでには、かなり厳しい道のりであった可能性が示唆される。

（5）創立五拾年記念會および百周年記念同窓会大会で再現された新式体操

ヤング女史が導入した新式体操は、創立五拾年記念會および百周年記念同窓会大会（昭和五十四年十二月廿六日）において再現されている。また、五拾年記念會にはヤング女史が来賓として出席し、Breathing Exercise、Free Gymnastics、Lancing、Percussion Exercise の 4 種の体操を再現するにあたり、直接指導したことが五拾年記念會ニ関スル記事（資料番号：9‐8）に記されている。さらに、百周年記念同窓会では、明治・大正・昭和にわたる目で見る「服装史」[7]を開催し、終了後、活水同窓会より衣装及び附属品が活水学院に寄贈され、その中に「アレー　二個、ワンズ　一本」が目録（資料番号：9‐54）に記載されているが、現時点での所蔵は確認できていない。

以上の結果より、長崎活水女學校における体育の始まりは、ヤング女史が着任した 1898（明治 31）年以降に、まずは毎日 30 分間の行間体育として、1901（明治 34）年には、正課の予科から高等科に至るまで、低学年では普通体操、中等科 3 年から器械体操がどの学

年にも週2時間を配置され、健康上欠席する場合は校医の署名を得ることが必要であった。ヤング女史着任以前に「遊歩」や「運歩」の時間が設置されていることから、これらに対してヤング女史が導入した体操が新式体操と呼ばれた可能性が考えられる。号令は全て英語で、ユニフォームを着用して行っていたが、当初はヤング女史も教え込むのに大変苦労し、生徒は洋装になることを嫌って免除を願い出たものがいて、当時長崎最大の劇場であった舞鶴座で有料公開に至るまでは、険しい道のりであった様子が窺えた。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計3件）

① 柿山哲治・小森大輔、長崎活水女學校における体育の始まり、体育・スポーツ教育研究、査読無、第14巻1号、(2014) 62‐65.
② Tetsuji Kakiyama 、The Origin of Physical Education at KWASSUI Girls' School in Japan、The 55th ICHPER・SD PROCEEDING、査読無、(2013) 453‐458.
③ 柿山哲治、バスケットボールが始まった場所、中京大学評論誌八事、査読無、第29号、(2013) 105‐112

〔学会発表〕（計3件）

① Tetsuji Kakiyama 、The Origin of Physical Education at KWASSUI Girls' School in Japan、The 55th ICHPER・SD Anniversary World Congress & Exposition、2013年12月20日、イスタンブール.
② Tetsuji Kakiyama、New Exercise Method Introduced to Girls' School by an American Woman in the Meiji Era、The 14th Congress of the International Society for the History of Physical Education and Sport、2013年8月19日、台北.
③ 柿山哲治・小森大輔、長崎活水女學校における体育の始まり、平成24年度春期体育・スポーツ・健康に関する教育研究会議、2013年3月20日、宮崎市.

〔図書〕（計0件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
柿山　哲治（KAKIYAMA Tetsuji）
中京大学・スポーツ科学部・教授
研究者番号：10255242

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：